

龍崎局長の米国出張（2026年8月29日～9月1日） 1 / 2

- 龍崎孝嗣内閣府宇宙開発戦略推進事務局長は、2026年8月29日から9月1日まで米国へ出張、30日にケネディー宇宙センターにおけるローマン宇宙望遠鏡の打上げ視察、31日に米国連邦航空局（FAA）との国際商業宇宙輸送に係る協力覚書への署名、米国政府関係者等と日米宇宙協力に関する意見交換を実施した。

連邦航空局（FAA）との協力覚書の署名

- 8月31日、龍崎局長とベッドフォードFAA長官との間で初となる「国際商業宇宙輸送に係る協力覚書」への署名を実施。
- 本覚書により、米国が先行している部分については、わが国の制度・基準作りの参考に資するとともに、日米両国の法令や基準の調和を図り、日米共に更に安全で信頼性の高い商業宇宙輸送の拡大を目指すもの。
- 日米双方で、今後の協力の継続・定期的な会合の実施で一致。



ベッドフォードFAA長官との協力覚書署名

ローマン宇宙望遠鏡の打上げ視察

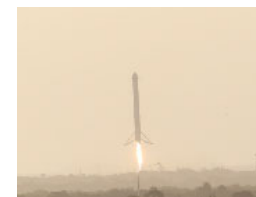
- 8月30日にケネディー宇宙センターにおいてナンシー・グレース・ローマン宇宙望遠鏡の打上げを視察。
- ダークマター・ダークエネルギーなどの宇宙の謎を解明する本プロジェクトには、JAXAも貢献。
- 打上げは、Space X社のファルコン・ヘビーにより実施、軌道への投入、1段機体2基の再着陸も成功。
- アイザックマンNASA長官との対面、挨拶も行った。



アイザックマンNASA長官との対面



ファルコン・ヘビーの打上げ



1段ブースターの再着陸

龍崎局長の米国出張（2026年8月29日～9月1日） 2 / 2

米国政府関係者との意見交換

国務省（ヴァー上級実務者、トンプソン副次官補）

- 日米双方が宇宙を経済活動、安全保障及び国民生活を支える重要なインフラと位置付けていることを確認。今後も宇宙分野における連携を一層深化させていく必要性について認識を共有し、日米包括的宇宙対話の次回開催に向けた調整を進めることで一致。

商務省（ジョーダン商業宇宙局長）

- 宇宙活動における認可制度の見直しや商業宇宙の促進に関する取組について意見交換。宇宙交通管理やスペースデブリ対策に関する双方の取組、宇宙戦略基金や政府による需要創出の重要性について認識を共有。日米包括的宇宙対話や規制当局間協力を通じ、日米宇宙協力を一層深化させていくことで一致。

CSIS-GWU共催夕食会

- 戦略国際問題研究所（CSIS）とジョージ・ワシントン大学（GWU）共催の夕食会に参加。日米宇宙協力に関する率直な意見交換を実施。
- 日本の宇宙政策や宇宙戦略基金が高く評価される一方、それらの実装や運用、人材育成及び市場形成が課題であるとの認識。宇宙事務局による強いイニシアティブが重要であるとの指摘。
- 日米宇宙安全保障協力については、共同のアーキテクチャや能力構築、重点分野に絞った実践的な協力が重要、との意見のほか、アジア太平洋地域の宇宙協力における日本のリーダーシップに対する強い期待が示された。



ヴァー国務省上級実務者との意見交換



トンプソン国務省副次官補との意見交換



ジョーダン商業宇宙局長との意見交換



CSIS-GWU共催夕食会